

民法Ⅱ

石川 優佳

科目番号	配当学期	単位	クラス	研究室
1658	通年	4	000	5号館08-11号室

学修テーマ

債権法・家族法

学修概要

民法Ⅱでは、民法Ⅰとの関係上、債権法および家族法を扱います。

債権とは、例えば、貸した金銭を返還するよう求める権利、被った損害を賠償するよう求める権利など、ある特定の人に対して一定の行為を求める権利のことで、権利であるからには、その請求が満たされるよう国家権力による裏付けのシステムが用意されています。この点を含めて、債権というものに共通するルールの総体を扱うのが、債権総論です。また、債権は、より具体的には契約や不法行為などに基づいて発生してきますが、それらの発生原因ごとに特有のルールを扱うのが債権各論です。

また、家族法とは、私たちの家族生活を規律している法領域をいい、法典としては民法典の第4編「親族」・第5編「相続」(民法第725条以下)が主たる対象となります。具体的には、婚姻、離婚、親子、相続、遺言などについて学びます。少子高齢社会を背景に、婚姻の多様化、離婚の増加、生殖医療の発達など、家族を取りまく環境の変化の中で、家族はどうあるべきかを考えながら学んでください。

テキストは、初学者にわかりやすいものをえらびましたが、これだけに頼らないように、条文は常に参照すること。また、判例のチェック(特に新たな判例)や立法のフォローも、法律学の性質上、必ず行ってください。

卒業認定・学位授与の方針との関連

養成する能力

◎経済社会における諸問題の解決能力を備えている。

○幅広い教養と商業に関連する、基本的かつ専門的な知識を身につけている。

△獲得した知識・技能等を総合的に活用して課題を解決する能力を備えている。

※◎、○、△は関連性を示す。

到達目標

民法の基礎的な考え方を学ぶことで、市民生活を送る上で必要な法律上の知識を修得する。

テーマ・課題

テーマ	課題
1 債務不履行に基づく損害賠償の範囲	債務不履行に基づく損害賠償の範囲について論じなさい。
2 債権者代位権	債権者代位権の意義と要件について論じなさい。
3 詐害行為取消権	詐害行為取消権の意義と要件について論じなさい。
4 保証債務	保証債務について論じなさい。
5 債権譲渡	債権譲渡について論じなさい。
6 受領権限のない者への弁済の効力	受領権限のない者への弁済の効力について論じなさい。
7 契約の分類	契約の分類とその意義について論じなさい。
8 同時履行の抗弁	同時履行の抗弁について論じなさい。

9 契約の解除	解除の要件と効果について論じなさい。
10 贈与	贈与契約について論じなさい。
11 手付	手付について論じなさい。
12 不動産賃借権の効力の強化	不動産賃借権の効力の強化について論じなさい。
13 請負	請負契約について論じなさい。
14 不法行為における過失責任主義とその修正	不法行為における過失責任主義とその修正について論じなさい。
15 親族の範囲と効果	親族の範囲と効果について論じなさい。
16 婚姻の要件	婚姻の要件について論じなさい。
17 内縁（事実婚）	内縁（事実婚）について論じなさい。
18 有責配偶者からの離婚請求	有責配偶者からの離婚請求について論じなさい。
19 法律上の実父子関係を否定する手法	法律上の実父子関係を否定する手法について論じなさい。
20 生殖補助医療と親子関係	生殖補助医療と親子関係について論じなさい。
21 普通養子と特別養子の相違	普通養子と特別養子の相違について論じなさい。
22 親権制度	親権制度について論じなさい。
23 扶養義務	扶養義務について論じなさい。
24 代襲相続制度	代襲相続制度について論じなさい。
25 相続の承認・放棄	相続の承認・放棄について論じなさい。
26 遺言の方式	遺言の方式について論じなさい。

使用テキスト

著者	書籍名	発行所
池田 真朗	スタートライン債権法〔第7版〕	日本評論社
床谷文雄, 神谷遊, 稲垣朋子, 且井佑佳, 幡野弘樹	新プリメール民法5 家族法〔第2版〕	法律文化社

参考文献

著者	書籍名	発行所
石田剛, 荻野奈緒, 齋藤由起	債権総論 NBS (日評ベーシック・シリーズ)	日本評論社
潮見 佳男	基本講義 債権各論〈1〉契約法・事務管理・ 不当利得〔第4版〕	新世社
潮見 佳男	基本講義 債権各論〈2〉不法行為法〔第4版〕	新世社
松川 正毅	民法 親族・相続 第7版 (有斐閣アルマ)	有斐閣
道垣内 弘人	リーガルベシス民法入門〔第4版〕	日本経済新聞出版社
潮見 佳男	民法(全)〔第3版〕	有斐閣

レポート課題

書式：横書き ワープロ：可

第1回

「債務不履行と不法行為の要件・効果、およびその異同と異同の根拠について論じなさい。」

第2回

「婚姻が、離婚によって解消された場合と配偶者の死亡（死別）によって解消された場合の法的効果について、両者を比較しつつ論じなさい。」

レポート作成にあたっての注意

1. レポート作成の注意点

- ①テキスト、参考書、および六法は、それぞれ最新版を使うこと。
- ②指定した参考書の該当部分に必ず目を通し、内容に反映させること。
- ③叙述の根拠となる条文を必ず列挙すること。

2. レポートの記述内容について

第1回については、債務不履行と不法行為それぞれの意義、要件、効果、問題点を指摘していくとともに、相互の違いやその根拠を明らかにしてください。同じ紛争でも、債務不履行に基づく損害賠償と、不法行為に基づく損害賠償が考えられるという場合に、どちらをとるかによって結論が異なることがあります。両者がどのように違うのか、なぜ違ってくるのか、違ってもいいのか、という観点から検討してみてください。

第2回については、まず、婚姻によって生じる法的効果、たとえば氏（苗字）の変動、姻族関係の発生、夫婦の財産関係、未成年の子に対する親権の行使などを列挙し、それぞれが婚姻の解消にあたってどのように処理されどのような問題があるのかを、離婚による解消の場合と死別による解消の場合との異同を示して考察していくこととなります。

レポートの評価基準

課題が求めている点が理解されていない場合、その程度に応じて不可とする。

単位修得試験について

持込：持ち込み可（テキスト・六法のみ） 筆記用具：自由

「テーマ」と「課題」に書かれている内容について、テキスト及び参考書を熟読して理解し、説明できるようにしておいて下さい。丁寧な記述が必要となります。

オフィスアワー

オフィスアワーは、指定した時間帯に研究室にて実施する。事前にメールにてアポイントメント (ykisk@ogu.ac.jp) を取ること。